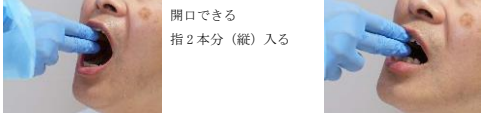










# 口腔の健康状態の評価

| 項目番号 | 項目                  | 評価             | 評価基準  | 評価の必要性  |
|------|---------------------|----------------|---|---|
| 1    | 開口                  | 1. できる 2. できない | <p>・上下の前歯の間に指2本分(縦) 入る程度まで口があかない場合(開口量3cm以下)には2.「できない」とする。</p>  <p>開口できる 指2本分(縦) 入る</p> <p>開口できない 指2本(縦) 入らない</p>   | <p>・開口できない場合は、口腔の健康状態の確認は行えないことから、歯科医師等との連携は必須である。</p> <p>・開口保持ができない場合は、口腔清掃不良となる可能性が高い。また、舌骨上筋群の筋力低下から嚥下障害も疑われる。</p>   |
| 2    | 歯の汚れ                | 1. なし 2. あり    | <p>・歯の表面や歯と歯の間に白や黄色の汚れ等がある場合には2.「あり」とする。</p>  <p>乾燥した汚れ 歯の根元と根に白色の汚れ 歯石 歯全体に汚れ</p>  | <p>・歯が汚れている状態は、汚れに含まれる細菌等も含めて付着している状態である。虫歯や歯周病の原因となるだけでなく、汚れを飲み込み肺に到達すると誤嚥性肺炎の原因にもなる。</p>  |
| 3    | 舌の汚れ                | 1. なし 2. あり    | <p>・舌の表面に白や黄色、茶、黒色の汚れ等がある場合には2.「あり」とする。</p>  <p>正常舌 白苔(口腔カンジダ) 茶(舌苔、汚れ) 黒(黒毛舌)</p>  | <p>・舌が汚れている状態は、汚れに含まれる細菌等も含めて付着している状態である。歯の汚れと同じく、汚れを飲み込み肺に到達すると誤嚥性肺炎の原因にもなる。</p> <p>・むし歯の存在や義歯の不適合が原因で汚れている可能性や、口唇・舌・頬等の動きが低下し、自浄作用が低下している可能性も考慮する。</p> <p>・口腔カンジダ症や貧血等、免疫低下や低栄養といった全身の問題も疑われる。</p>  |
| 4    | 歯肉の腫れ、出血            | 1. なし 2. あり    | <p>・歯肉が腫れている場合(反対側の同じ部分の歯肉との比較や周囲との比較)や歯磨きや口腔ケアの際に出血する場合は2.「あり」とする。</p>  <p>健全な歯肉 腫れた歯肉 腫れて出血した歯肉</p>   | <p>・歯肉の腫れ、出血は歯周病の可能性があり、歯周病は放置すると歯を失う可能性がある。</p> <p>・歯周病の悪化は糖尿病等の全身疾患との関連も報告されている。</p>  |
| 5    | 左右両方の奥歯でしっかりかみしめられる | 1. できる 2. できない | <p>・奥歯がない部分があっても、本人にしっかりかみしめられないとの訴えがある場合や、義歯をいれても奥歯がない部分がある場合は2.「できない」とする。</p>  <p>義歯でしっかりかみあっている 左右上下の奥歯はすべてある 右の上下の奥歯がない</p>  | <p>・奥歯がない場合に、食物をかみ砕く能力が低下し、食事形態等に関係があるだけでなく、窒息事故との関連も報告されている。</p> <p>・転倒リスクとの関連性も報告されており、義歯の利用等も含めて検討が必要である。</p>  |
| 6    | むせ                  | 1. なし 2. あり    | <p>・平時や食事時にむせがある場合や明らかな「むせ」はなくても、食後の痰がらみ、声の変化、息が荒くなる等がある場合は2.「あり」とする。</p>  <p>むせ 呼吸切迫 解説動画</p>  | <p>・誤嚥下障害の可能性があり、食事形態等に関係があるだけでなく、入院等との関連も報告されている。</p> <p>・唾液や食物等を誤嚥している可能性があり、誤嚥下機能の精査や訓練等が必要な場合もある。</p> <p>・不顕性誤嚥がある者は「むせ」がある者よりも誤嚥性肺炎の可能性が高い状態といえ、医療機関との連携が必須である。</p>  |
| 7    | ぶくぶくうがい※1           | 1. できる 2. できない | <p>・歯磨き後のうがいの際に口に水をためておけない場合や頬を膨らませない場合や膨らませた頬を左右に動かさない場合は2.「できない」とする。</p>  <p>できる できない 解説動画</p>  | <p>・ぶくぶくうがいの可否は口の周りの筋肉等の動きと関連しており、食事形態等に関係があるだけでなく、入院等との関連も報告されている。</p> <p>・口腔機能の低下とともに、口腔衛生管理が困難となる要因の一つである。</p>   |
| 8    | 食物のため込み、残留※2        | 1. なし 2. あり    | <p>・食事の際に口の中に食物を飲み込まずためてしまう場合や飲み込んだ後に口を開けると食物が一部残っている場合は2.「あり」とする。</p>  <p>食物が残っている 義歯に食物がついている 解説動画</p>  | <p>・誤嚥下障害の可能性もある。</p> <p>・口腔機能と食事形態があていない可能性がある。</p> <p>・食事形態の検討や、誤嚥下機能の精査、訓練等が必要な状態である。</p>  |
| 9    | その他                 | 自由記載           | <p>・歯が痛む、揺れている、欠けている、孔があいている、とがっている。歯肉や舌等、口の粘膜に痛み、傷、口内炎、乾燥がある。口の中の乾燥、口臭、義歯の汚れ、義歯がすぐ外れる、口の中に薬が残っている等の気になる点があれば記載する。</p>  <p>歯が動揺し脱落しかけている 義歯のバネの歯が欠けている 歯が欠け唇を傷付けている</p> | <p>・歯の問題については歯周病、むし歯の可能性もある。歯の脱落による誤嚥や誤飲、歯の脱落で口の粘膜を傷つける可能性がある。</p> <p>・口唇、舌、口腔内の粘膜の異常は口腔衛生状態の不良だけでなく、唾液の分泌を含む、口腔機能の低下に伴う誤嚥下障害の可能性もある。また脱水や貧血、口腔カンジダ症等の可能性もある。</p> <p>・義歯の問題は誤嚥下機能への悪影響、口腔カンジダ症や粘膜炎、口腔粘膜の損傷、義歯の誤飲等のリスクを高める。</p> <p>・薬の口腔内の残留については、薬効が落ちるだけでなく、口の粘膜を障害する可能性がある。</p> |

※1 現在、歯磨き後のうがいをしている場合に限り確認する。(誤嚥のリスクも鑑みて、改めて実施頂く事項ではないため空欄可)

※2 食事の観察が可能な場合は確認する。(改めて実施頂く事項ではないため空欄可)